

たが、遺跡とともに埋蔵されている木簡というかけがえのない歴史資料を後世に伝えていく責務があると考え、私たちは、ここに木簡学会第二八回総会を開催するにあたり、特別史跡平城宮跡や平城京跡に包蔵されている木簡を確実に保存する方策がとられるよう、会員の総意としてあらためて次の三点を要望いたします。関係各位・機関のご理解・ご協力と、誠意ある対応を切に要望するものです。

一 大和北道路のルート最終決定にあたっては、なお慎重な検討を行い、特別史跡平城宮跡や平城京跡に包蔵されている木簡を確実に保存する方策をとること。

二 かりに地下トンネル設置が不可避となり、シールド工法がとられる場合においても、トンネル出入口付近や地上の路面部分などでは、遺構や木簡などの遺物の破壊が懸念される。したがって、事前に十分な発掘調査を実施すること。また、地下水位の調査を継続的に実施し、その結果を公表すること。

三 事前発掘調査の結果、木簡をはじめとする重要な遺物・遺構の発見があった場合や、木簡の保存への影響が危惧される地下水位の変動が生じた場合には、ルートの変更も含めて再度検討を行い、遺跡・遺物について万全の保存措置を講じること。

二〇〇六年二月二日

木簡学会

# 会 告 韓国木簡学会との交流

二〇〇七年一月、韓国木簡学会が設立され（会長朱甫敬慶北大学教授）、一月一〇・一二日の二日間にわたり、「国際シンポジウム韓国古代木簡と古代東アジア世界の文化交流」が開催された。私たちは、韓国木簡学会の時宜を得た設立を心からお慶び申し上げますとともに、さらなるご発展をお祈りしたいと思います。

日本の木簡学会としては、交流の第一歩にまず会誌『木簡研究』のバックナンバーセットを寄贈させていただいた。韓国木簡学会でも韓国国内の出土文字資料を整理、報告する学術誌『出土文字資料研究』（年二回刊行）を刊行する予定と聞く。会誌の交換を手始めに、今後人的な交流、そして研究交流を実現していきたいと思う。幸いにも、本年の第二九回研究集会において、朱甫敬会長の招聘が実現し、尹善泰総務理事とともに参加される見通しとなっている。

木簡学会では、今後韓国木簡学会と積極的に交流を進め、東アジア木簡学を築き上げていきたいと考えてるので、会員のみなさまのご理解とご協力、そして暖かいご支援をお願い申し上げる次第である。